

学校教育目標	自ら学ぶ意欲と考えをもち、心豊かでたくましく生きる子どもの育成
育成を目指す資質・能力	言葉で伝え合う力(書く・読む、聞く・話す)の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 【国語科】 ・「読むこと」では、目的を意識して文中の中心となる語や文を手掛かりにして自分の考えを書くこと。 ・「話すこと・聞くこと」では、話し手の目的を資料などから捉える力。 ・「書くこと」では、文章構成だけでなく、句読点やかぎかっこの使い方、正しい日本語の使い方(「い」「ら」抜き言葉)の習得。 ・言葉の意味や使い方の習得。新出漢字の習熟。 【算数科】 ・数量関係を立式したり、資料を読み取り、根拠をもとに説明する力。図形の構成や性質の理解と活用。 ・見直しや確かめの不十分によるケアレスミス。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・情報を整理し、必要な情報から自分の考えをつくり、根拠を明らかにしながら記述したり説明したりする力を付ける。 ・学習内容の定着のための繰り返し学習の実施(個別指導の時間の確保) ・学習規律の徹底
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・授業の中に毎時間「書く」「話す」活動を位置付けることにより、ほとんどの児童が自分の考えを書いたり発表できたりしている。 (学校評価票(児童):自分の考えを書いている 92.5% 自分の考えを発表する 83.2%) ・授業の内容が分かっていると答えた児童 1年86.8% 2年91.5% 3年91.4% 4年92.6% 5年94.4% 6年92.2% 全体91.9% 目標より -3.1% ・単元末テストで80点以上の割合が82%以下になっている領域がある。国語知・技2年68% 3年40% 思判表2年66% 3年76% 算数知・技2年65% 4年77% 思判表2年55% 4年72% 5年68%	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・生徒指導の3機能を意識し、考えを伝え合い認め合う授業に取り組む。(学校評価票(教職員):100%) ・学習の手立て(発問・ICT活用・具体物・教室掲示等)を活用し、主体的な学びのある授業を実施する。(学校評価票(教職員):100%) ・家庭学習の内容を工夫(授業との連動・反復練習)する。(学校評価票(教職員:94.4%)) 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・大分っ子非常勤講師の加配を活用し、3・5年算数を少人数で実施。 ・週末課題で読解プリントや視写プリントを全校で実施。(月曜日に解説) ・「テストの受け方」「見直しの仕方」「わたチェック」を作成し、全学年で統一して取り組んだ。 ・「言葉の宝箱の一覧表」「つなぎ言葉の一覧表」を利用し、語彙量を増やす取組を3学期から進めている。 ・授業中に教え合いの時間を設けた ・教科担任制や交換授業に取り組んだ。2年算数⇄国語 4年 社会⇄理科 体育⇄音楽 体育⇄図工・書写 6年 体育⇄音楽・外国語	

学力に関する達成指標
国語・算数の単元末テストが8割以上に達した児童が82%以上

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善テーマ)言葉で伝え合う力を育てる授業づくり (授業改善の重点)「聞く・話す」活動「読む・書く」活動を単元の中に意図的に位置付けた授業の推進	
	〈取組内容〉 単元や題材の中で、「聞く・話す」活動「読む・書く」活動を計画的に設定した単元計画の作成	〈家庭・地域の取組内容〉 ・家庭学習の充実 ・授業参観、オープンスクール等、積極的に参加する。
	〈取組指標〉 ・全ての教員が、日常授業で「聞く・話す」活動「読む・書く」活動を行う。 ・全ての教員が、日常授業で「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を位置付ける。 ・全ての教員が、学期に1回「東大分小学習のきまり(教師用)」をもとに授業ができているかセルフチェックを行う。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・毎日、児童の家庭学習について目を通す。
	〈検証指標〉 ・児童アンケートで「授業がわかる」と答えた児童95%以上。 ・「自分の考えをノート等を書くことができた」と答えた児童93%以上 ・「自分の考えを発表している」と答えた児童88%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 ・保護者アンケートで「宿題をするように声をかけている」と回答する保護者90%以上。
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・全教職員参加によるプランの取組の共通理解。 ・習熟度に応じた補充学習。 ・家庭学習の見直しとICT機器の活用を視野に入れた家庭との連携。 ・各学年ごとに学力定着状況の分析(年2回)と今後の取組の策定。	